



訪問しました!

こうべ男女いきいき事業所

三ツ星ベルト株式会社

今回は、平成19年度の「こうべ男女いきいき事業所」として表彰された三ツ星ベルト株式会社を訪ねました。働きやすい職場環境づくりを通じ、従業員とその家族を応援できれば…と支援制度を次々と創設する同社。制度の内容や設けられるようになった契機、実際に活用された社員の方の感想などをお聞きしました。

三ツ星ベルト株式会社神戸事業所長・理事 保井剛太郎さん
管理本部 総務部 森永千春さん



右から保井剛太郎さん、森永千春さん

地域貢献から従業員の支援制度を創設

工業用ベルトの専門メーカー、三ツ星ベルトは1919年に神戸市長田区で創業。その後一時期、神戸ハーバーランドセンタービルに移転したものの、阪神淡路大震災で活気がなくなってしまう長田区の住民から戻ってきて欲しいという要望を受け、2000年、再び創業地の長田へと復帰しました。

「地域の活性化のため、地元の子供達の思い出となるようなイベントの実施をはじめ、ユニセフ募金活動や学校へのピオトープ作りの支援など、様々な活動に取り組んできました。そんな中、社内で働く従業員の子供達に会社として何か出来ているのだろうか、という疑問につきあたったわけです。そこで2006年4月に母子・父子家庭、障害のある子を持つ従業員へ支援金を支給する「お星さま制度」、同年11月に子どもの通院や学校行事参加、介護のための休暇が取得できる「お星さま休暇」を創設しました」と理事の保井さん。育児休業中に「お星さま休暇」創設を知った森永さんは「職場復帰後、子どもが急に熱を出したら…と新米ママなりに心配していたので安心しました」。先日、病気ではなく、保育園の参観日に「お星さま休暇」を利用して、ママの役目を果たされた様子を笑顔でお話くださいました。



たなばた祭りで子どもたちと楽しむ三ツ星ベルト社員の方々

「人を想い、地球を想う」を基本理念に

2008年4月、「ふれあい休暇制度」も創設。2001年に発足した社内従業員によるボランティア団体「三ツ星ベルトふれあい協議会」が開催する地域イベントに終日参加した従業員に有給休暇を付与するという内容です。協議会の会長も兼任する保井さんいわく「現在150名ほどの従業員がボランティア会員として頑張っています。役職や部署をこえたメンバーのコミュニケーション強化を図る機会にもなっています」。4月には四国工場ふれあいイベントとしてさぬき津田地引き網とさぬき手打ちうどん体験会を、またこの7月には地元長田で神戸・長田たなばたまつりが盛大に行われました。イベントには従業員家族の参加も歓迎。同じ年齢の子供を持つ地域住民や社員同士の交流も深まり、仕事と家庭の両立を理解する場ともなっています。

すべての制度は従業員を信じ、従業員を大切にしたいとの思いにより、診断書や参加の証明書などの提示は義務付けられていません。「人を想い、地球を想う」を基本理念にかかげる同社ならではの、やさしい思いがあふれた、いきいき職場環境への取り組みと言えます。

「三ツ星ベルトふれあい協議会」が中心になってスタートした「神戸・長田たなばたまつり」は、地域の人々、社会で関わる人々との交流を行い、今では長田区住民にとって、とても楽しいイベントとなっています。

そして何よりも、ここで紹介した活動、これらは決して強制ではなく、「自分の意志で自分ができるときに自分ができるところ」というスタンスで年齢や役職に関係なく自発的に行われています。お互いを知り合う機会を設け、会社以外の人間関係の輪を広げ、幅の広い豊かな社会人を育てるため、これからも本当の意味でふれあいがある地域貢献、地域密着を目指していきます。